

変わるアメリカと世界

トランプからバイデンへ

和歌山大学経済学部 准教授
藤木 剛康(ふじき たけやす)

連載①

一つの時代の終わり

「織田がつき 羽柴がこねし 天下餅 座りしままに 食ふは 徳川」という歌があります。旧来の社会秩序が崩壊して乱れた戦国の世の前に信長が天下統一の事業を始め、その後を引き継いだ秀吉が完成させたが、平和な世で権力を握ったのは家康だったという意味ですよね。実は、アメリカでもこの数十年来の社会秩序がボロボロになっており、最初に問題に気づいて国政の課題にしたのがトランプ大統領、同じ問題を引き継いでよるとみることができそうです(ただし、平和な世の到来はまだまだ先のことになりそうです)。2016年の大統領選挙でのトランプの勝利は衝撃でしたが、ああした規格外の人物でなければ古い社会秩序の破壊から再構築へと向かう流れは作れなかったかもしれませぬ。この連載では、トランプ政権誕生に象徴されるアメリカ社会の変化と今後の見通しについて、ポイントを絞って解説していきます。なお、最近

『現代アメリカ政治経済入門』という一般向けの入門書をミネソタ大学から刊行しました。関心のある方は、ぜひ、手に取ってみてください。

50代以上の方なら、1990年前後に起こった米ソ冷戦の終焉とアメリカの勝利に沸いた時代を覚えておられるのではないのでしょうか。あの頃は、市場経済と民主主義を理念とするアメリカ型社会が計画経済と一党独裁によるソ連型社会に勝利したのであり、世界はアメリカ型の社会に収斂していくという議論がまことしやかに語られていました。アメリカは日本企業の追い上げも、マイクロソフトやアマゾン、グーグルに象徴されるIT産業の台頭でかわし、対外的には自由と民主主義を世界に拡大しようとする国際主義的な外交政策を推し進めていきました。しかし、繁栄の影では今日のアメリカ社会の混乱につながるような問題が着実に進行してしましました。日本に代わって経済的に台頭した中国がWTOに加盟し、安価な工業製品を日本以上の勢

いでアメリカに輸出した結果、多くのアメリカ国民が豊かな消費生活を享受する一方、製造業を柱としていた地域は衰退しました。とりわけ、ラストベルト(錆びついた工業地帯)と言われるアメリカ中西部では失業者が増大し、先の見えない現状に人々の不満は募ってゆきました。他方、IT産業の台頭に沸く沿岸の都市部では世界中から優秀な人材が集まり、高学歴のエリートが生み出す新たな製品やサービス、そして人種や国籍、古い慣習にこだわらない考え方によって、田舎のアメリカとは全く異なる考え方やライフスタイルが広まってゆきます。その結果、都市部での変化についていけず「取り残された」と感じる人々は、都市エリートの進めるアイデンティティ政治(ジェンダーや人種、性的志向など個人のアイデンティティによる社会的差別の撤廃をめざす政治)や経済的不平等への反発を強めていきます。こうした人々の不満に目をつけ、すくい上げたのがトランプだったのです。

わだ い
浪 切
サ ロ ン
第 132 回

音を楽しむ、音でつながる

～学校で「音楽する」ことの可能性～

- 話題提供者 上野 智子 (和歌山大学教育学部 准教授) (音楽教育学)
- 日 時 12月15日 水 19:00～20:30
- オンライン講演会 / 参加無料 / 申込必要 / 100名限定
- 申込は右記 QR コードからご登録ください。*申込は14日|火|17時まで
- 問合せ先 和歌山大学岸和田サテライト TEL・FAX 072-433-0875



申込はこちらから